

「雑草との共存に学ぶ」

島根県 松源寺 住職 佐瀬宏洋  
しやうげんじ きせこうよう

「あれ！この前、草取りをしたばかりなのにもう生えている」ほんの数日前に取ったばかりの草がまた伸びている、そんな経験をされた方は多いのではないのでしょうか。

禅寺の修行では、このような草取りをはじめとした掃除をすることを「作務」といいます。「作務」は「動く坐禅」とも言われ、禅寺では坐禅修行と同じく尊い禅の修行として「作務」を行っています

お寺では、いつも自然との戦いです。特に草とりは、人間対雑草の永遠の戦いのように感じます。私も、初めのころはぶつぶつ文句を言いながらの草取りでした。しかし、途中から草も一生懸命に生きているのだと思うようになり、抜く時に「ごめんよ」、「たまたま、ここに生えたばかりに」と謝りながら草を取るようになりました。

私たちは何気なく草取りをしていますが、抜いている草の名前を知らない自分に気づかされました。草は、人類が誕生する以前から存在しています。種類によっては小さく可愛い花も咲かせます。白、ピンク、黄、紫と多種多彩に花が咲きます。しかし、私たちは草を「雑草」とひとくくりにし、名前を知らうともしないのです。

「雑草という名の草はない」とは植物学者、牧野富太郎博士の名言です。草と向き合っているうちに、私は草が過酷な自然環境にも適応し生きていく姿は尊いものだと感じました。

草が抜かれても抜かれても次々に生えるのは、草たちの生きる工夫があるからなのだと思います。また植物には、二酸化炭素を減らし酸素を増やす働きがあるのです。自然は素晴らしい教科書であり、学びを提供してくれます。しかし、人間は都合の悪いものは、害虫や雑草のような扱いで排除します。

この地球には、生きとし生けるもの全てに意味があり、それぞれに役割があり存在するのだと思います。私たちはあらためて自然界に目をやり、人間だけの地球ではない事を再認識する必要があります。慈愛の心で、動物や植物との共存の意味を考え直す事が、持続可能な社会の実現に繋がっていくのではないのでしょうか。